

宮崎公立大学
Miyazaki Municipal University



MMU ニュース・レター

第23号・冬

開学10周年記念「凌雲会館」オープン！

11月1日、凌雲会館のテープカットをする管理者たち。

祝 宮崎公立大学凌雲会館完成



凌雲会館の積極的な活用を

後援会会長 藤山 修一



宮崎公立大学は平成15年に創立10周年を迎え、このたびその記念事業の一環として「凌雲会館」が完成いたしました。

この施設は、一階に「学生支援センター」として就職活動支援室、ボランティア支援室、課外活動団体連合事務室、後援会・同窓会事務室、会議室等のスペースを設け、学生がより充実した学生生活を送ることができるようにとの趣旨で作られております。

学園祭や体育祭等の活動を実行委員会が行う際に、空いた教室を借りて活動が行われていましたが、これからはこの施設を利用することにより十分な打ち合わせや作業を行うことができますし、就職活動につきましても、就職相談室が今までは会議室を改造して手狭な状態であったものが、これからは就職に関する資料等が整った部屋で情報交換が出来、さらにプライバシーに配慮された個室面談室も完備されたことにより充実した就職活動ができるようになっております。

この施設をどう使っていくかは、あくまでも学生の皆さん次第です。課外活動の拠点としてこの支援センターを積極的に活用し、充実した学生生活を送られることを期待しております。

後援会の皆様には子供さんの学生生活について興味をお持ちいただくため、また卒業生の皆様には後輩の就職等の話し相手として気軽にお立ち寄りいただきこの施設を有効にご活用いただきたいと思います。

最後になりましたが、これからも後援会活動につきまして、皆様のご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

仲間の輪を広げていきたい

同窓会なな会会長 石黒 良一



宮崎公立大学同窓会「なな会」は私たち第一期生の卒業と同時に発足しました。

名簿や会報など、全てを手作りで始めましたが、8年間の活動を通して現在では組織や活動も一定の形となりつつあります。まだまだ小さく若い同窓会であり、これから交流の輪を広げていきたいと思っています。

私自身も社会人として、「なな会」と同じ9年目を迎えます。毎日の「仕事（音楽療法）」、「家庭（長男3歳）」、ライフワークの「陸上競技」等を通して、卒業当初の自分と比べると少しは視野が広がったのではないかと感じています。

そして在学生の皆さんの「就職」をはじめとする様々な事柄で、私達卒業生から伝えることができることもあるのではないかと感じています。

同窓会でも就職活動を応援する企画を考えていきたいと思っています。

高度に組織化され激動を続ける現代社会の中で、私たちの「個人」として、また「社会の一員」としての「責任」が真剣に問われ始めています。

この時代に私はあらためて「本音で語り合うこと」の大切さを感じています。学生時代の仲間は、本音で語り合える貴重な存在です。その仲間の輪が在学生から卒業生、大学関係者の方々にまで広がっていったなら、それは大きな力となるはずです。

私たちが待ち望んだ10周年記念会館がいよいよ開館しました。ぜひ、この会館を皆で「宮崎公立大学の仲間の輪を深め、広げる場」としていきたいですね。

●宮崎公立大学MMUニュース・レター 第23号 ――[目次]―― 平成17年(2005)年・冬

凌雲会館の積極的な活用を……後援会会長 藤山 修一	2
仲間の輪を広げていきたい……同窓会なな会会長 石黒 良一	2
凌雲会館がオープンしました！―地域支援と学生支援の拠点―	3
[演習Ⅲ・Ⅳ公開]私たちのゼミ紹介します⑩……………	4
中別府ゼミ[宗教学演習]/中山ゼミ[英米文学演習]/田緑ゼミ[ソフトウェア演習]/有馬ゼミ[行政論演習]/永松ゼミ[民俗学演習]/福田ゼミ[英語学演習]	
地域社会とのパートナーシップ～地域研究センターお披露目～	

……………地域研究センター長 玉木 徹志	6
抗日戦争勝利60周年……………加藤 総子	7
充実した楽しい一年間……………帯谷 朋子	7
平成17年度交換留学生……………	7
体育系・文化系・クラブ・サークル紹介⑪……………	8
卒業生だより……………	10
竹田理恵(宮崎中央農業協同組合)/矢野裕子(ホンダロック)/甲斐亮(田崎真珠)/立石みゆき(パワーステーション)	
事務局だより……………	11
保健室から/相談室だより/就職活動支援室から	
拍手にわいた第12回スポーツデイ……………	12

凌雲会館がオープンしました！！

ー地域支援と学生支援の拠点ー

平成17年11月1日、開学10周年を記念して建築中だった凌雲会館が開館しました。

「凌雲会館」という名称は、学内そして卒業生からの公募により決定しました。

凌雲会館の1階は、本学学生がよりよい学生生活を送るための学生支援センターとなっています。

2階は地域研究センターとなっており、「地域の生活や活動にかかわる様々な課題等を調査・研究し、その結果を地域に還元し、その発展や活性化に寄与すること」を目的に設立されました。

学内外を問わず、多くの方々に活用していただくことで、様々な情報を地域に向けて発信していきたいと思っています。

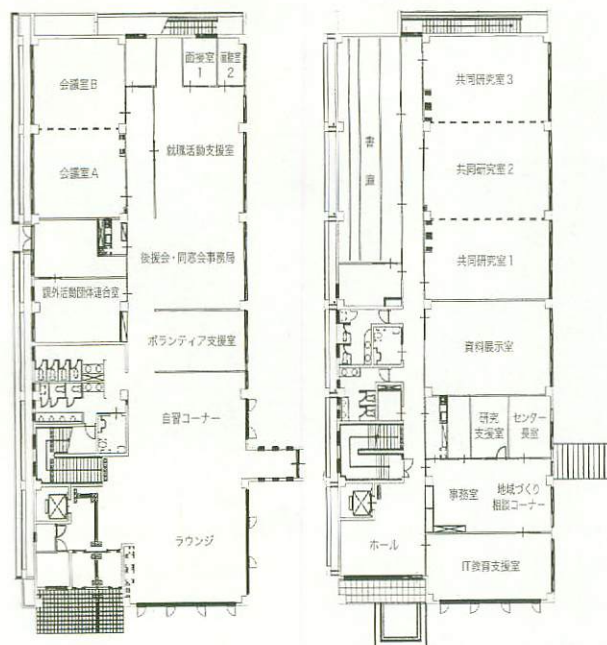
◎学生支援センター施設概要（1F）

【就職活動支援室】

従来の就職相談室・就職関係資料室をさらに充実させ、学生の就職活動をよりきめ細かに支援します。

【ボランティア支援室】

ボランティア活動等の地域貢献できる学生の育成・支援



1 F 学生支援センター

2 F 地域研究センター



を行う拠点となります。

【課外活動団体連合室】

部・サークル活動をさらに発展・支援するための課外活動団体の活動拠点となります。

【後援会・同窓会事務局】

学生活動を支援する後援会・同窓会の事務運営が行われます。

【その他】

学生の交流の場としての「ラウンジ」、勉学の場としての「自習コーナー」が開設されます。また、各種会議に使用できる会議室があります。

◎地域研究センター施設概要（2F）

【地域研究センター事務室】

地域に根ざした研究、共同研究、受託研究等の研究を行うための窓口になります。

【IT教育支援室】

パソコン講座等を通して高齢者や子供など幅広く多くの住民が技術習得できる場となります。また、テレビ会議システム等の情報機器を活用した活動や、先端技術導入のための研究を行う拠点となります。

【資料展示室】

研究成果を展示するとともに宮崎に伝わる古文書等の歴史的資料を展示します。

【共同研究室】

地域に根ざした各分野における研究を行うための研究室を開設します。住民の方々との協働研究、企業等との共同研究、受託事業等を行うための拠点となります。

[演習Ⅲ・Ⅳ公開] ゼミは多彩。今、国際文化は

学生が自ら学び自ら活動する

中別府 温和ゼミ[宗教学演習]

私たちのゼミは、政治、法、芸術をふくめた人間の要求は、かつては宗教的なものの中で生まれ育まれてきたという考えにもとづいて、人間の考えや行動ならびに人間社会の仕組みを明らかにしています。ユダヤ思想、家元制度、贈答慣習、聖母出現、音楽療法と、ゼミ生23名の研究題目はさまざまです。先生は論文の書き方にとっても厳しく、ゼミ生はヘトヘトになります。自分の論文をいつどこでだれにでも語れるよう、私たちは日本語と英語で論文を書くことにしています。

研究活動のほかにも、留学生歓迎会や強化合宿、凌雲祭（研究発表とアカペラ）、年忘れコンサート、いろいろなボランティア活動に参加しています。

このようなゼミ活動は、すべてゼミ生が自分たち自身で企画し実行します。先生は、大学は学生が創るものだから、と論文指導の他はほとんど何もおっしゃいません。私たちのゼミは、自由と主体性を大切にして、学生が自ら学び自ら活動するゼミです。（ゼミ生一同）



文学を通して人間性を磨く

中山 本文ゼミ[英米文学演習]



文学作品には、その時代や社会、宗教、哲学など様々な要素が含まれています。そしてどの作品にも共通していることは、そこには様々な人間の姿が描かれているということです。文学を勉強するということは、自分自身の視野を広げ、人間について考えることだといってもいいかもしれません。

私たち中山ゼミでは、英米文学作品を読みながら、その作品に描かれている主題を追求しています。ゼミは、英語で行われ、最後に日本語できちんと理解しているかどうかを確認しています。ゼミの予習には、少し時間がかかって大変ですが、自分のためになり英語力をアップさせることは間違いないと思います。

研究室には、いつもゼミ生が来ており、たまにゼミの卒業生の方が来られるので、楽しい雰囲気にも包まれたゼミです。先輩・後輩のつながりが深いことも、中山ゼミの特徴です。英語の力を伸ばしつつ、人間性を磨きたいと思う方には絶好のゼミです。

無限の可能性にチャレンジ

田緑 正治ゼミ[ソフトウェア演習]

私たち田緑ゼミは、JavaやC++のようなプログラミング言語の習得を目的としたソフトウェア演習を行っています。JavaやC++を徹底的に学べるのはこの演習だけ！この演習でプログラミングの基礎を学んで社会で活躍している先輩方も少なくありません。文系だからプログラミングなんて難しそう・・・なんてことはありません！プログラミングも英語と同じ言語なのです。そしてモノを創っていくという意味ではやりがいを感じるものの出来るクリエイターでもあるのです。初めて自分で打ったソースコードが動いた時の感動から始まり、最終的には卒論で1つのソフトウェアの作成を目指します。



田緑先生の惜しみなくどこまでも温かな指導と、毎週行われる他のゼミとの合同バドミントンにより、ゼミ生同士だけでなく他のゼミ生ととっても仲良し！将来を見据えながら、日々の確実な学習により充実した学生生活を送れるのは、このゼミであつたからだと確信しています。

花ざかり！

私たちのゼミ紹介します^⑩

行政を通じて社会の動きを見る

有馬 晋作ゼミ[行政論演習]

ゼミ生は、4年生5人、3年生10人、そして新しく2年生が8人となりました。行政論というと、とっつきにくい感じがしますが、国や自治体の仕組みや政策を学んでいます。毎週1回のゼミではテキストを分担し報告して、皆で意見交換しています。有馬先生がゼミ生の質問に具体的に答えています。質問が多く大変そうです。

春休みは鹿児島県庁を、夏休みには日南市役所をゼミ合宿で訪問しました。7月のグローバル研究会では、「談合」についてゼミ発表しましたが、その準備を通じてゼミ生同士の結束も一層高まりました。以上が、有馬ゼミの一年の流れです。



4年生になると卒業論文を書きますが、保育園の不足とかマンション建設の日照権問題とか、身近なものをテーマにする人が多いです。このように行政論というと硬い雰囲気のような気がしますが、仲良くやっています。

民俗調査を実施！

永松 敦ゼミ[民俗学演習]

永松ゼミは現在、4年生は7名（1名は韓国に帰国）、3年生は14名の大所帯である。ゼミでは大人数であることを考えて、総合民俗調査に乗り出す。民俗学の範囲は広い。衣食住から生産・生業・人生儀礼・社会生活・信仰・宗教・芸能・口承文芸まで幅広く扱う。そのため、前期では民俗学の基礎を学び、夏休みから宮崎市内の民俗調査を実施しようと予定していたのだが、台風の被害で調査どころではなくなった。それでも、9月18日の十五夜の日の午前中に行われる下北方町の景清廟の祭りには、ゼミ生10名ほどを引率して訪れた。源平合戦のときの武者、平景清（たいらのかげきよ）を祭る堂として知られ、近世の日記などにも登場している。当日、1年に一度のご開帳ということで、なかを覗くと、琵琶が2点置かれているのが目に付いた。九州に残る盲僧琵琶の一種である。大学の近隣に民俗伝承の豊富な地域が見つかった。後期からは早速調査に入りたい。



英語の仕組みを学ぶ

福田 稔ゼミ[英語学演習]



こんにちは。私たち福田ゼミは、英語学・英文法に興味・関心をもった学生が集まっています。このゼミでは、英語の仕組みについて学びます。

みなさんは、楽器の前になぜtheがつくのか、to不定詞の後にはなぜ原形なのか気になりませんか？英語の素朴な疑問について一つずつ解明していき、毎回のゼミで必ず新たな発見があり、研究室を出るときは少し成長して帰ることができます。福田ゼミはとても明るく楽しいゼミです。学ぶときは真剣に学び、休むときはわきあいあいとしてみんなとても仲がよくゼミの時間を楽しみにしているくらいです。ゼミ生全員がこのゼミに入ってよかったと心から思っています。

チョコとネコの好きな福田先生はいろいろな趣味をお持ちで、ためになるお話をたくさんしてくださいます。とても話しやすい先生でみんなからの信頼も厚いです。英語に興味がある方、常に笑いの絶えない福田ゼミに興味がある方はいつでも遊びに来て下さい。

地域社会とのパートナーシップ ～地域研究センターお披露目～

地域研究センター長 玉木 徹志



この11月1日に、開学10周年記念事業の一つとして
凌雲会館がオープンしましたが、その中核施設となるの
が二階部分を占める「宮崎公立大学地域研究センター」
です。大学は本来、教育・研究の府ですが、最近
とくに大学が立地する地域社会に対してどのような貢献
をするかが問われています。地域への貢献も大学の重要
な役割であります。

本学も開設当初からThink globally, act locallyの精神
で、地域に開かれた大学として公開講座、自主講座、講
師派遣、オープン・キャンパス、社会人特別選抜、科目
等履修生、図書館開放、交流センター市民講座などを実
施してきました。

さらに一步進めて地域住民の期待に応えるために当セ
ンターが開設されました。当センターは地域の生活や活
動に関するテーマを調査、研究し、その結果を地域に還
元します。また当センターは、本学の教員、学生という
研究資源を地域のために有効活用することを基本として、
地域のニーズを先取りした調査、研究を行います。

そのために研究プロジェクトの多くは、市民も同等の
研究パートナーとして参画していただく「市民との協働
研究」を初めての試みとして具体化します。宮崎はボラ
ンティア、NPOなどの市民活動が活性化していますが、
協働研究により、さらに理論化、実証、検証に奉仕する
ことが期待出来ます。

すでに本年4月より、当センターの研究プロジェクト
は6つの研究テーマで開始されています。これら6テー
マは「地域記録資料のデジタルアーカイブ・システム」、
「大学と地域を結ぶcocomo（学生ボランティアの学習
効果評価）システム」、「バリアフリー情報提供システ
ム」、「ふるさとイメージ再編成と創造の実践－ひむか
かるた」、「世界から見た宮崎、宮崎の国際化」、「宮



崎の公共コミュニティ施設のあり方」であり、公開講座
でその一部が発表されます。研究テーマはこの他広く県
民、市民の皆さんからも寄せていただきますが、そのた
めに、センターに「地域づくり相談コーナー」を設け、
正に開かれた地域研究センターを目指したいと考えます。

地域研究センター平成17年度研究プロジェクト

No	研究者	研究テーマ
1	★大賀郁夫 李善愛 四方由美	地域記録資料のデジタルアーカイブ・シ ステムに関する研究
2	★辻利則 田中宏明 川瀬隆千 竹野茂 森部陽一郎	大学と地域を結ぶCOCOMOシステム の構築と活動評価の研究
3	★金子正光	市民協働によるバリアフリー情報提供シ ステムの構築に関する調査研究
4	★新井克弥 野中博史 川瀬隆千 四方由美	ふるさとイメージの再編成と創造のため の実践的研究～“ひむかかるたプロジェ クト”
5	★永松敦 マリリンブックス ヒューニコル 野中博史 田宮昌子 広瀬訓 倉真一 下絵津子 野間修	国際宮崎研究－世界から見た宮崎の政治・ 経済・文化・教育、そして国際化－
6	★野間修 玉木徹志 有馬晋作 永松敦 広瀬訓	宮崎の公共コミュニティ施設のあり方に 関する調査・研究

★印は代表者

国際・地域・協働

人がつなぐ 人をつなぐ
知のリンク

－宮崎公立大学は地域づくりをお手伝いします－

抗日戦争勝利60周年

蘇州大学留学 加藤 総子

2005年。日本では「終戦60年」、中国では「抗日戦争勝利60周年」の記念すべき年である。

中国にいる時、日本人から「韓国人のふりをしよう。」と言われた事があった。一度は初めて南京を訪れたとき、一度は今年の4月、反日デモが相次いで起こった時。

中国に着いてすぐに南京を旅行することになった。蘇州から南京まで列車で3時間。列車が南京駅に着く頃になって、一緒に行った日本人が突然こう言った。「南京では韓国人のふりをしよう。」一瞬、何を言われたのか分からなかった。南京大虐殺が原因で、南京では反日感情が高いが、何もそこまでしなくても…。「でも何かあったら大変だし、韓国人のふりをしたほうが安全でしょう。」それを聞いて、心の中に何とも言えないやせなさが残った。その後しばらく、その出来事についてはすっかり忘れていた。しかし今年の4月、中国各地で反日デモが起こり、日本資本の店が投石されたり、日本人留学生が中国人に殴られたりという事件が起こると、周囲の日本人がまたこう言い始めた。「外では韓国人のふりをしよう。」

それは面倒なことに巻き込まれないための嘘だったかもしれない。けれど私たちが「韓国人のふり」をして、解決できる問題は一つもない。中国人の反日感情のもととなった日本の侵略を、なかったこととして扱うことは決してできない。終戦から60年が経った。戦争のことを落ち着いて話せる時期が来たのではないかと思う。



充実した楽しい一年間

蘇州大学留学 帯谷 朋子



一年前日本を出発したのがまるで昨日の様に感じるほど、蘇州大学での学習は、充実して楽しいものでした。始めの頃は先生の話聞き取るのも大変でしたが、徐々に進歩している過程が手に取るように分かり、ますます中国語に対する意欲が湧いてきました。いくつかのコンテストにも参加し、特に演説のコンテストでは、大勢の前で演説をすることで自分の中国語力のアップと自信につながりました。クラスで中国語の曲を練習し、発表会に出場したりもしました。積極的に様々な活動に参加していくことで、より充実した生活を送れたと思います。

そして何より、この素晴らしい生活は「朋友(ポンヨウ)」の存在無しでは考えられませんでした。共に同じ寮で生活し、楽しみ・悩みを分かち合った日本人の「朋友」、国籍は違いながらも同じ教室で同じ言語を学び、中国語を通して交流を深め合った様々な国の「朋友」、そして何度助けを求めても嫌な顔一つせずに助けてくれ、常に気遣ってくれた中国人の「朋友」。この留学で得た一番の宝物、それは紛れもなく「朋友」でした。

この一年を通して、本当に好きなことやりたいことがあるのなら、自分から行動を起こしてみることが大事だと感じました。すると自然と周りに同じ目標を持った「朋友」が集まってきます。逆に、何事も自分から行動を起こさなければ状況は変化しません。これからどの様な場所に行っても、やる気と「朋友」を大切に、前に進んでいきたいと思っています。

●平成17年度交換留学生

●蘇州大学へ



海原 渚
(うみはら なぎさ)

●マラスピナ大学へ



金丸 友里
(かねまる ゆり)

●蘇州大学から



中戸 菜由子
(なかと まゆこ)



于培
(Yu Pei)



高彦芳
(Gao Yanfang)

●蔚山大学から



辛成敏
(Shin Sung Min)



李イエナ
(Lee Ye-Na)

クラブ、サークル活動で大学生活を

クラブ

[体育系]

●男子バレーボール部

私たち男子バレーボール部は、毎週火・木・土・日の週4回、体育館で練習しています。男子バレー部だけでは人数が少ないので、女子バレー部と一緒に練習していて、そのため、男女の仲はとても良く、かつ、先輩後輩関係なく、楽しい雰囲気の中でプレーしています。

私たちは、毎年春と秋に行われる宮崎県大学リーグと九州大学6部リーグに出場しています。今年の春の県リーグでは、初優勝を果たすことができました。そして、今年の秋の目標は、県リーグ連覇と春に果たすことができなかった九州リーグ5部昇格で、その目標を実現させようと、日々練習に励んでいます。

来秋には宮崎で試合が行われるので、皆さん、ぜひ足を運んでみてくださいな！！



●極真空手部

極真空手部は現在、週3回（月・水・金）体育館で活動しています。空手という経験者ばかりが集まっているというイメージがあるかもしれませんが、部員のほとんどは大学に入って空手を始めた人ばかりです。だから練習は基本を一からやるので初心者の方でも大丈夫です。

また、極真空手部は県の交流試合や昇級審査、凌雲祭での演武大会に毎年参加しています。これらに向けて部員は毎回の練習に取り組んでいます。

各々が目標に向けて練習をしているので自然と練習は厳しいものになりますが、厳しい分だけ得るものがたくさんあります。今年は宮崎で全九州大会があるので特に気合をいれて日頃の練習に励んでいます。



●サーフィン部

皆さんは日本の中でもいい波がくるサーフィンスポットとして、宮崎県が有名であることを知っていますか。夏ごろには他県からたくさんのサーファーが宮崎にやってきて、サーフィンを楽しんでいます。このような素晴らしい環境で私たちサーフィン部は活動しています。現在部員数は7名と少ない人数ですが、それぞれ自分のペースでのんびりと楽しく海に入っています。

サーフィンというと、男の人がするようなスポーツのように思われがちですが、私たちの部活では女の人でも楽しんで波にのっています。毎日を充実させることができ、自然の大切さも教えてくれる、私たちはこの部活を通してサーフィン以上のことを学んでいます。

●女子バレーボール部

私たち女子バレーボール部は、4年生6名・3年生5名・2年生8名・1年生10名の計29名で活動しています。

主に出場する大会として、春と秋に開催される宮崎県内の大学対抗県リーグ・全九州大学対抗の九州リーグがあります。昨年の秋季九州リーグ宮崎大会で7部優勝6部昇格、4年生が抜けた新チームで挑んだ今年の春季九州リーグ長崎大会では6部準優勝を果たすことができました。

今は10月15・16日に開催される県リーグでの優勝と、10月28～31日に熊本で開催される秋季九州リーグでの6部優勝5部昇格に向けて練習に励んでいます。



練習は厳しいときもありますが、男女仲良く楽しくバレーをしています。興味があれば体育館へ！

●剣道部

こんにちは、剣道部です。私たちは今、部員10名で活動しています。毎週の活動は、月曜日、水曜日は夕方6時半から、日曜日は9時から剣道の練習に励んでいます。監督の先生である井福経安は教士7段であり、剣道について詳しくまたわかりやすく教えてくださいます。

私たちの部活で、欠かせないことは、韓国ウルサン大学校の方たちとの交流です。私たちは毎年夏休みに韓国に行き、剣道を通して交流の輪を深めています。去年は韓国ウルサン市の大会に参加し、個人戦優勝、団体戦女子優勝、男子準優勝の成績をおさめました。また、今年は釜山で開かれた大会に参加し、去年に引き続き、個人戦で優勝と3位の成績をおさめました。

言葉や文化は違うけれど、剣道を通じて、励ましあったり、刺激あったりしています。10月には、神宮大会に参加するため、ウルサン大学校の方が来られるので、とても楽しみにしています。部員全員仲良く、わきあいあいと活動していますので、ぜひ見学にきてください。

宮崎県大学対抗県リーグ・全九州大学対抗の九州リーグがあります。



[文化系]

●吹奏楽部

吹奏楽部は現在1～3年生の部員20名で活動しています。年間の主な行事は、夏に行われる吹奏楽コンクールや凌雲祭での演奏で、他にも入学式や卒業式での演奏や他大学との合同演奏会なども行っています。

今年の7月に行われた吹奏楽コンクールでは、宮崎県の大会で金賞を受賞し代表に選ばれました。そして8月に行われた九州大会へ出場し、銀賞を受賞しまし

充実させよう！

体育系・文化系・クラブ・サークル紹介 ⑪



た。私達は日々、「聴いて下さる方に私達の音楽を届けよう、伝えよう」ということを胸に練習に励み、演奏しています。

今年は初めての試みとして12月3日に学外の会場にて第一回定期演奏会を開催します。もっと多くの人達に私達の音楽を届けられるよう、これからも頑張っていこうと思います。

●光画部

私達光画部は部員42名で活動しています。

活動内容はモノクロ写真を中心に撮っており、モノクロならフィルムも自分で作ることができ、現像も自分でできる設備も部室には整っています。

カメラは主にマニュアルカメラを使っています。マニュアルカメラとは自分で光の量やピントを調節できるカメラです。初めは難しいと感じるかもしれませんが、やり方を覚えてしまえば、これを使って自分流の撮り方を見つけていくこともできます。だから初心者への入部大歓迎です。実際部員は初心者で入部した人がほとんどです。

キャンプ、バーベキューなど部員の交流を深める為の楽しい行事がたくさん光画部にはあります。ぜひ一度、部室に遊びに来て下さい。



●美術部

美術部は、現在10名の部員でいつも楽しく活動しています。普段は個人制作が主ですが、凌雲祭や演劇部との共同展示会では、共同制作も行います。去年の凌雲祭では、ある一つのクラシックをテーマとし、全員がその曲を聴いて、それぞれに想像して絵を描くということをしました。

今、美術部はさまざまな新しいことにチャレンジしようとしています。特に今年は、宮崎市役所と共同作業で、「未来の宮崎」をテーマに、絵を制作しました。私たち学生の視点から、自分たちが未来に住みたい宮崎を考え、その気持ちを絵に込めて描きました。これからも私たち美術部は、新しいことに挑戦し、感性の領域を広げ、芸術を通して自らを表現していきたいと思っています。

サークル

【体育系】

●フットサルサークル

フットサルサークルは、男女約40名で練習をしています。昨年の7月にできた、まだ若いサークルです。練習は週に3回程度で積極的に取り組んでいます。また月に数回、社会人チームを相手に練習試合が行われ、熱戦を繰り広げています。

初心者、経験者問わずフットサルを楽しく、また意識も高く頑張っています。大会の出場経験はあまりありませんが、毎年冬に行われる選手権大会、リーグチャンピオンシップの優勝を目標に練習しています。活動以外の場でもみんなの仲が良く、いい雰囲気です。夏に行われるキャンプなど、毎年楽しい計画を立てています。

サッカーはちょっと・・・という君！！フットサルをやってみては！！

【文化系】

●アカペラサークル

写真は、昨年度1月末に県立芸術劇場で開催された「アカペラ・アンサンブルフェスティバル」に出場した時のものです。サークルを結成して2年目の今年は、13人で活動しています。笑いあり涙ありの活動を通して、支え合いながら成長しています。

アカペラ・アンサンブルフェスティバル以外にも、昨年は、祭り「えれこっちや宮崎」の舞台に立たせていただきました。ほかに、学内では、クリスマスコンサートや学祭で、学外では、アカペラの魅力を生かし、視覚障害者セミナーで歌わせていただける機会もありました。

私たちは歌が大好きです。これからも、みんなで協力し、すてきなサークルを創っていききたいと思います。



卒業生だより

笑顔の似合う人に

宮崎中央農業協同組合 竹田 理恵



私は、就職活動中、「笑顔で明るく！」をモットーに試験に臨んでいました。

現在、宮崎中央農業協同組合（JA宮崎中央）に勤務しています。JAでは農家の方々が安心、安全に農業に携われるように営農や生活の指導、農産物の共同販売、貯金の受け入れ等幅広い事業を展開しています。

社会人になって強く思うことは人と接する機会が多くなったことです。特に農家の方（組合員）と接することがよくあります。JAでは毎月決められた日に組合員の家々を訪問しますが、早朝にもかかわらずどの家庭も私達を笑顔で温かく迎えてくれます。

入組して半年が経った今でも上司から言われるのは笑顔と元気の良さを忘れない事です。そのため私は仕事で失敗した時もよくよせず、笑顔でいることを常に心掛けています。

みなさんも笑顔と明るさを忘れず、悔いが残らないように頑張ってください。

幸せに生きる

田崎真珠 甲斐 亮



私は、神戸の田崎真珠本社に勤務し社長室に所属、社長秘書をしています。主な仕事内容は、社長のスケジュール管理や同行といった、社長に関わる全てです。ミスをするとき自己責任により何らかの形で挽回しなければならないのが社会人であり、学生のときと比べると厳しいことのように感じます。自分の犯したミスが、すぐさま社長や会社の大きな失敗へと繋がってしまうことに時折不安を感じますが、そのようなプレッシャーに潰されず、思い切って行動することも大切であると感じています。

私は常に「快樂」を感じるために生きています。私個人の分類で、「快」とは努力して何かを達成する幸せ、「楽」とは努力などせず欲望を満たすだけの幸せです。

学生時代は「楽」を中心とした生活、現在は「快」を中心とした生活になりました。どちらも同じ幸せですが、「快快樂」というリズムでの現在は以前より素敵だと感じる場合があります。社会という場を楽しみましょう。

●このコーナーの執筆者は、2005年春の卒業生です。

日々勉強 日々成長

ホンダロック 矢野 裕子



私が勤務しているホンダロックは、主に自動車用機能部品を開発・生産しています。入社後、2ヶ月間の実習期間を経て、6月に事業管理部経理課に配属され、現在は、毎日の出納業務、預金管理、海外への送金を中心とした仕事を行っています。

お金を取り扱う職場なので、金額間違い、桁違い、振込み先間違い、期日忘れなど少しのミスも許されません。仕事中は、常に集中し、正確かつ迅速に業務をこなしていかなければなりません。

月末になるとなかなか仕事が終わらなかつたりと毎日がとても忙しく、勉強の連続ですが、仕事に対する責任の大きさを感じると同時に、やりがいも感じています。1日1日の業務が、1歩1歩私自身の成長につながっていると思います。

就職活動を行うみなさんも、やりがいのある仕事を見つけ、充実した毎日が送れるよう頑張ってください。努力した分だけ自信につながると思います。

大学時代に将来を！

パワーステーション東京オフィス 立石 みゆき



私は入社後、プログラマーとして他社へ出向し、現行システムの改善作業を行っています。

コンピュータやインターネットに大変興味をもっていたので、大学のゼミでプログラミングを勉強し、この職業に就きました。

入社してからは、現行システムの仕様を理解するのに苦労しましたが、だいぶ仕事にも慣れてきました。自分が担当した箇所を作成し終えた後、利用している人のことを考えると、とてもやりがいを感じます。

これから色々な経験をし業務知識を深め、システムエンジニアになれるよう励んでいきたいと思っています。

今、この生活があるのは、大学時代に将来自分は何かをしたいのか悩み、色々な経験をしていく中で、自分が好きなことを発見できたからだと思います。

みなさんも、無駄だと思うことでも、色々なことにチャレンジし、将来の目標を見つけ、それに向かって頑張ってください。

事務局だより



●平成17年度前期卒業式——

9月30日、学長室にて前期卒業式が行われました。中別府学部長から卒業証書・学位記を授与された卒業生は、幾分緊張気味でしたが、卒業の喜びをかみしめながら新しい社会へ巣立っていきました。

●平成17年度(下半期)主な行事——

10月3日 後期授業開始
10月6日 公開講座開始
11月1日 凌雲会館オープニングセレモニー
11月5日 凌雲祭(6日まで)
12月24日 冬季休業(1月4日まで)
1月21日 センター試験(22日まで)
1月26日 後期定期試験開始
2月25日 一般選抜前期日程試験
3月12日 一般選抜後期日程試験
3月24日 第10回卒業式

●サンシャインレディに下登由香さん

宮崎の顔として、観光宮崎を県内外にPRする「宮崎サンシャインレディ2005」に、本学の下登由香さんが選ばれました。

8月3日に行われた最終選考会では、「私の好きな宮崎」というテーマでのスピーチや、質疑応答などの審査が行われました。

下登さんは「前任者の宮崎を誇りに思い、愛する気持ちを引き継いで、持ち前の明るさで宮崎を広くPRしていきたい」と抱負を語っています。

●学生たちも地域貢献——

7月2日(土)、宮崎東地区交流センターで、小学生が参加する「七夕ファッションショー」が行われました。

これは、社会心理学ゼミのゼミ生を中心として活動している「子どもDAYプロジェクト」が企画したもので、参加した小学生も、日頃接点の少ない大学生とのふれあいを楽しんでいるようでした。

また、情報科学研究室に所属するゼミ生は、子育て中の母親を支援するための取り組みをしています。

核家族化が進み、周囲に子育ての悩みを相談できる機会のない母親同士が知り合える場を提供するため「子育てママのIT教室」の開催やホームページの開設をすすめています。

これらはほんの一例ですが、このように、教員だけでなく学生たちも自主的に地域社会に飛び出して活動しています。



「食は医なり、医は食なり」という考え方

みなさんは、「医食同源」という言葉をご存じでしょうか? 「病気を治療する(医)も、日常の食事をする(食)も、源は同じ」という意味で、食物がなによりの薬であるという考え方です。

そのように考えれば、どのような食事をとれば体に良いのか、なんとなくわかる気がしませんか? 私たちが毎日食べている食物は、私たちの体の血となり肉となります。飽食の時代だからこそ、選んで食べることが必要なのです。「医食同源」を心に留め、一食一食を大切にしましょう。

や性の問題、同棲、妊娠、出産、中絶等々の諸問題を抱えています。しかし、これらの事は、あまり人には相談できない事です。「思春期の若者の性」を「生きるための健康問題」と考えて、お互い同士でピア・カウンセリングして自分たちの生き方の問題として考えて行きませんか。このことは、すでに、多くの自治体や大学等で実践されており、成果をあげています。本学でもこんな事ができたらと願って準備を進めているところです。

就職活動支援室から

「就職相談室」は11月から凌雲会館1階の学生支援センターに移転して、「就職活動支援室」となりました。みなさんが利用しやすいように、情報検索コーナーや面接室なども設けております。

また、企業の求人票や先輩の残した就職活動の報告書をはじめ、「就職ジャーナル」「新聞ダイジェスト」などの月刊誌、そして、企業研究、業界研究のための「会社四季報」、SPIなどの筆記試験対策本や公務員や教員の試験対策のための「公務員受験ジャーナル」「教員養成セミナー」など就職に関する雑誌、書籍がたくさん備えてあります。「エントリーシート編」「面接編」など就職用のビデオも豊富に揃っていますので、きつとみなさんのお役に立つと思います。

「就職活動支援室」では、みなさん一人ひとりの就職活動を親身になって支援したいと考えていますので、自己PRや志望動機、模擬面接なども気軽に相談してください。

みなさんが、納得のいく就職活動を展開されるよう期待しています。

相談室だより

思春期の性と健康を考える ピア・カウンセリングについて

ピア・カウンセリングのピア(peer)とは、「仲間・同輩・対等者」という意味で、同じような環境にいる、また、同じような状況や経験を共有する仲間が、日常の悩みや相談事などを気軽に相談し合うこと、お互いにカウンセラーになって自分の考えを打ち明け合うことを「ピア・カウンセリング」と呼んでいます。

この「ピア・カウンセリング」は「聞く力」や「質問する力」を養い、コミュニケーションスキル(人と対話する技術)やソーシャル・スキル(付き合い方の技術)を高めてくれます。簡単に言えばあなた達同士のカウンセリングのことです。特に今、あなた達は思春期・青年期を迎えており、二次性徴が顕著になり、性意識・性欲求の意識が活発化している時です。それで、異性交

保健室から



蔚山チームも大奮闘。

拍手にわいた第12回スポーツデイ

恒例のスポーツデイが5月13日に開催され、学生・教職員約600名が参加、会場になった大学体育館では終日、応援の声と拍手で賑わいました。

メイン種目は、昨年同様ミニバレーボール。アトラクションでTシャツコンテストや障害物競走が行われ、ゼミやサークルを母体に結成された各チームが、日頃の練習成果やチームワークを披露。さらに今年は蔚山大学校からの短期留学生や事務局チームも初参加、スポーツを通して思いっきり交流を深めました。

宮崎公立大学
MMUニュース・レター
第23号・冬

平成17年12月
発行 宮崎公立大学
編集発行人 長友 武
〒880-8520 宮崎市船塚1-1-2
TEL 0985-20-2000
URL <http://www.miyazaki-mu.ac.jp>